



館蔵
ツェンベリー『日本植物図譜』
初版 1794-1805

近畿大学中央図書館報

香散見草

2009 39号

目次

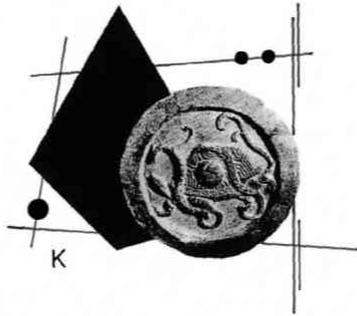
☆近畿大学中央図書館における環境調査および燻蒸作業について	図書総務課 松本牧子	1
☆館蔵資料紹介		
グロティウス『戦争と平和の法』パリ、1625年	経済学部講師 濱田太郎	13
☆第15回中央図書館蔵書展を終えて	レファレンス課 熊井あづさ	
	収書・整理課 松田裕子	19
☆ホームページ	中央図書館課員 東畑須美子	23
☆編集後記		24

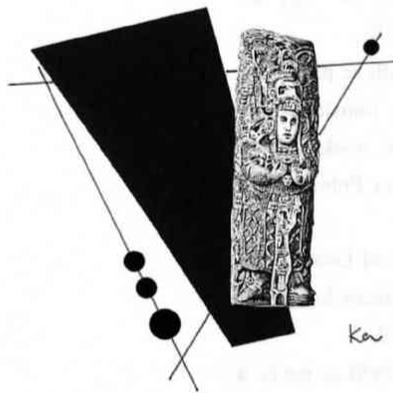
香散見草

山里の軒はにさけるかさみくさ

色をも香をも誰みはやさん

(葳玉和歌集)





編集後記

図書館随想

四季のある、日本をこよなく好きです。学生・院生と接することもなくなりましたが、この時期は、進学・就職等出会いました別れ、学んできて良かったと思えた卒業生を送り出せたか。

新しく新入生を迎えるキャンパス、そして図書館。気持ちも新たに意気揚々とした新入生が図書館で図書資料を手に取り、学ぶ姿を早くみたいものです。

(K.Y)

Speak-out

燻蒸の話 1

感想はと聞かれると「大変でした」

一部の本を燻蒸処理に出すことはあるのですが、図書館での燻蒸処理は始めてで、貴重な経験をしました。また、燻蒸後、クリーニングという作業を館全員で行いました。

言葉では、簡単なクリーニングという6文字松本課員の詳細な文をお読みになって想像してください。この作業にかかわられた、館員の皆様「お疲れ様」でした。

燻蒸の話 2

カビ・虫、今回この問題を抱えて、地球温暖化が頭をよぎります。寒い季節が短く、暖かい季節の到来が早く感じられます。今年は特に、図書館として、貴重な資料を保存し未来に伝えていくのも大切な役割です。今回のこの貴重な体験を活かして今後の資料保存をどうすればいいのか考えるきっかけとなりました。

グロティウス

濱田先生から、すでに9月の初めに原稿をいただいていたのですが、随分お待たせしました。

いつも館蔵資料紹介を読ませていただくのを楽しみにしています。今回も原稿を読ませていただいて初めて知る書誌学的事項の多さに驚いています。

平成20年度蔵書展のテーマは「特選 貴重書展 館報香散見草を介して」

展示された貴重書は、館報の館蔵資料紹介で掲載されたものです。

蔵書展のテーマは、毎年変わりますが、また

いつか濱田先生が書かれたことを参考にグロティウスを鑑賞する日を楽しみにしています。

蔵書展 1

1年にほぼ1度の割合で蔵書展を開催しています。

蔵書展の開催準備は、時間がかかり、開催しても蔵書の扱いや処置に神経を使い担当している方々のご苦勞が偲ばれます。でも、「もっと見たいよ！蔵書展」、年2、3回は駄目ですか？と思っているのは、私だけでしょうか？

蔵書展 2

今回の蔵書展では、ギャラリー・トークの開催、また記念品等の作成などが新に検討し行われました。

年々、進化する蔵書展、今年は何を考えているのか楽しみにしています。

ホームページ

今回原稿をいただいたのは、私の先輩、東畑さんです。

私が近畿大学に奉職し、最初に中央図書館に配属されるとき、仕事を教えていただきお世話になりました。

再び、同じ職場になり、一緒に仕事をすることになりました。

あの当時、IBMの電子タイプライターを弾丸のように打って、洋書の目録カードを作成されていたのが印象に残っています。原稿を読み、懐かしさのあまりその当時の図書館にタイムスリップしました。

図書館へ戻り、館報編集委員として2年余り「香散見草」に携わってきましたが、編集委員も交代の時期がまいりました。

この2年間、館報を作成するのは私の楽しみの一つでした。原稿を快く引き受けていただいた多くの先生方や職員の皆様方に感謝しています。有難うございました。また、理工学部の楠田一夫先生には、カットの図案を引受けていただき私たちの館報に華やかさを与えていただきました。

これからも多くの方々にお世話になると思いますが、今後とも館報「香散見草」をよろしくお願いします。

(E.N)

近畿大学中央図書館報 香散見草 39号

2009年4月発行

編集・発行 近畿大学中央図書館

〒577-8502 東大阪市小若江3丁目4番1号

TEL(06)6721-2332